

知っているようで知らない

くらしとお金のヒミツ

指導書

(授業展開例・ワークシート例付)



主体的

対話的

で

深い学び

の

—— 学習ができる! ——



はじめに

東京都消費生活総合センターでは、学校でのインターネット環境が整備されたことを受けて、Web版消費者教育読本を作成しています。

今年度は、小学校5・6年生の家庭科を想定し、以下の教材を作成しました。

◆ **目標** 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考える。

1. 家庭で使うお金は、家族が働くことによって得られた限りあるものであることを実感する。
2. 家族は、計画を立てて家計収支が釣り合うようにしていることに気付く。
3. 計画的なお金の使い方について考える。

まだ家計費を賄ったことのない小学生に、この内容を伝えるのは容易ではありません。Web版読本の利点は、仮想家族の主人公になって楽しみながら体験学習ができることです。単に楽しむだけではなく、「主体的・対話的で深い学び」に結び付けることを願って、本教材を作成しました。この教材が消費者教育の一助になれば幸いです。

平成30(2018)年3月 東京都消費生活総合センター

目次

1 小学校での消費者教育

- 1 小学校における消費者教育の必要性 P1
- 2 本教材との関係 P1

2 教材紹介

1. Web版消費者教育読本の構成 P2~3
2. 3つのステージの説明 P4~5

3 授業展開例

1. ヒミツその1~その3 を使った授業のイメージ P6~7
2. ワークシート(例) P8
3. Web版消費者教育読本を活用した授業展開例 P9~10

4 小学校家庭科における年間授業計画例

- 1 新学習指導要領と消費者教育 P11
- 2 指導の工夫 P12
- 3 本Web版消費者教育読本の活用 P12
- 4 指導計画案 P13

1

小学校での消費者教育



帝京大学 大学院 教職研究科
客員教授 小関 禮子

プロフィール

東京都公立小学校教諭を経て、平成12年度~20年度東京都公立小学校校長。東京都 公立小学校家庭科研究会会長、全国小学校 家庭科研究会副会長、内閣府消費者教育専門家(アドバイザー)を歴任。平成21年度に帝京大学に着任。大学院 教職研究科教授を経て、平成29年度より現職。

1 小学校における消費者教育の必要性—主体的に考え、判断し、行動する子供の育成

今、大きく変化する社会にあって、子供たちは多くのモノや情報に囲まれて生活しています。ファッションやさまざまな玩具類等、子供の購買意欲につながるモノがあふれる一方で、情報も次から次へと押し寄せて、自分で深く考えたり決めたりすることも少なくなっています。また、キャッシュレス化が進み、交通系プリペイドカードでも簡単な買い物ができたり、インターネット上の買い物も増えていたりなど、見えないお金の問題も考えていく必要があります。子供が巻き込まれる消費者トラブルや消費者被害も増えています。

こうした「モノ、金銭、情報」に関わる子供たちのさまざまな問題は、子供のものの見方、考え方に大きな影響を及ぼしており、生活の仕方を見直す必要に迫られていると考えます。さらに、消費生活のあり方は、資源の枯渇など、地球環境に大きな影響を与えてもいます。

消費者教育は、モノやお金の使い方だけでなく、それを通して自分で考え、判断し、行動する力を育てることを目指しています。単に「無駄遣いはしないこと」とか、「お金を大切にしてください」というようなしつけ的なことではなく、お金とはどんなものなのか、どのような働きがあり、どのように生活に生かしていくべきなのか等について、子供自身が考えることを通して、健全な金銭感覚を育て、自立して生活できるようにしていくものです。子供たちの人間形成の土台となる教育であると考えています。子供がモノやお金について学ぶことは、生活を学び、社会を学ぶことだと言えるでしょう。

平成24年に制定された「消費者教育の推進に関する法律」では、学校、家庭、地域等のさまざまな場において、主体的に生きる消費者を育成することが求められています。

2 本教材との関係—尊い労働の対価をどのように生活に生かしていくか

消費者教育の推進に関する法律では、小学生は「消費者としての素地の形成が望まれる時期」と示されています。「生活の管理と契約」に関わる領域では、小学生は「物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えよう」と呼びかけられています。

子供たちは、本教材で、「生活を支えるお金は、家族が日々一生懸命働いた結果、得たものであること」を改めて理解するとともに、「手に入るお金には限りがあり、大切なものであること」、「一定の枠の中で、計画的・有効に使う必要があること」を具体的に考えます。

また、1か月の生活費を自分なりに使う疑似体験を通して、衣食住を中心とした毎日の生活に目を向け、よく考え計画的に使うことの大切さを実感します。この過程で、毎月決まって支出するモノがあることや不測の事態に備えた貯金の重要性にも気付いていきます。

1 Web版消費者教育読本の構成

注)本教材は消費者教育に限り、使用可能です。営利を目的とした使用は一切禁止とします。

この教材は、Web版消費者教育読本、ワークシート、指導書から構成されています。



Web版消費者教育読本 (3つのステージ)



ワークシート (エクセルでダウンロード可能)



指導書 (A4判16ページ)

① Web版消費者教育読本

児童がそれぞれのパソコン・タブレット上で、体験学習できるように設計されています。



3つのステージから学習ができます。授業に合わせて好きなところだけ使うことも可能です。

ワークシート(エクセル)、指導書がダウンロードできます。

② ワークシート

このワークシートは各ステージに対応しており、自由に加工することができます。

Web版読本の各ステージに対応

ワークシート①: 1. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握する。 2. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握する。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握する。

ワークシート②: 1. Web版「ヒミツその1」から、働いている人とお金を貯めて、貯蓄を始めてみよう。 2. 働いている人のやり取りを把握して、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 4. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。

ワークシート③: 1. Web版「ヒミツその3」を見て、1か月の生活費を把握して、お金の流れを把握しよう。 2. Web版「ヒミツその3」を見て、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 4. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。

ヒミツ その①

ヒミツ その②

ヒミツ その③

③ 指導書(本書)

この教材を使った授業をイメージできるように、全体像を一目で把握できるように工夫しました。授業計画作成の参考にしたい方向けには、授業展開例とワークシートの解答例もあります。

全体像を一目で把握したい方へ

3 授業展開例

学習目標	活動内容	留意点	教材
1. ヒミツその1～その3を使った授業のイメージ	1. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握する。 2. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握する。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握する。	1. Web版「ヒミツその1」から、働いている人とお金を貯めて、貯蓄を始めてみよう。 2. 働いている人のやり取りを把握して、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	Web版「ヒミツその1」
2. 家族に必要なお金の流れを把握する。(ヒミツその2)	1. Web版「ヒミツその2」を見て、家族で使うお金の流れを把握しよう。 2. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	1. Web版「ヒミツその2」を見て、家族で使うお金の流れを把握しよう。 2. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	Web版「ヒミツその2」
3. 家族に必要なお金の流れを把握する。(ヒミツその3)	1. Web版「ヒミツその3」を見て、1か月の生活費を把握して、お金の流れを把握しよう。 2. Web版「ヒミツその3」を見て、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 4. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	1. Web版「ヒミツその3」を見て、1か月の生活費を把握して、お金の流れを把握しよう。 2. Web版「ヒミツその3」を見て、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 4. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	Web版「ヒミツその3」

授業の流れを作る発問のヒントが満載です。

授業計画作成の参考にしたい方へ (家庭科教員向け)

授業展開例-2 (5年(内容C)「暮らしようにお金と物」)

学習目標	活動内容	留意点	教材
1. 家族に必要なお金の流れを把握する。	1. Web版「ヒミツその2」を見て、家族で使うお金の流れを把握しよう。 2. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	1. Web版「ヒミツその2」を見て、家族で使うお金の流れを把握しよう。 2. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	Web版「ヒミツその2」
2. 家族に必要なお金の流れを把握する。	1. Web版「ヒミツその3」を見て、1か月の生活費を把握して、お金の流れを把握しよう。 2. Web版「ヒミツその3」を見て、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 4. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	1. Web版「ヒミツその3」を見て、1か月の生活費を把握して、お金の流れを把握しよう。 2. Web版「ヒミツその3」を見て、お金の流れを把握しよう。 3. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。 4. 家族で使うお金の流れを把握して、お金の流れを把握しよう。	Web版「ヒミツその3」

2 3つのステージの説明

ヒミツ その① お金って、いったいどこから来るんだろう？

小学校5年生の主人公「計画まもる」と一緒に、家族や町の人がどんな仕事をして収入を得ているのか、町に出て話を聞きに行きます。

生活するにはお金が必要で、家族が働いて得た大切な収入であることが学べます。

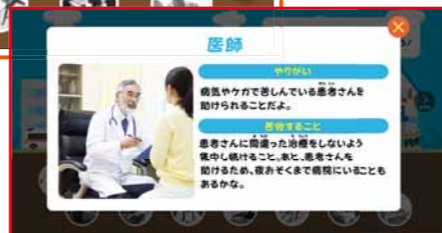


スクロールすると町の風景が次々と変わります。

14種類の職業

- 1 医師
- 2 警察官
- 3 花農家
- 4 ペットショップ店員
- 5 パン屋
- 6 漁師
- 7 美容師
- 8 建築士
- 9 保育士
- 10 コンビニ店員
- 11 ホームヘルパー
- 12 会社員(事務)
- 13 工場従業員
- 14 宅配便の運転手

職業は全部で14種類。アイコンをクリックすると、一度見た職業をいつでも振り返って見ることができます。



14種類の職業について、やりがいと苦労することを見ることができます。

ヒミツ その② 生活するためには、ぜんぶお金が必要だよ

計画家の家の中を見ながら、家庭ではどんな生活費がかかっているか考えます。



普段あまり意識していないけれど、生活するためにはいろいろなことにお金がかかっていることを学べます。

ボタンを押すと、部屋のどこかで電気が付いたり、水が流れたりして、生活費を探すヒントが現れます。

生活費

- 1 電気代
- 2 水道代
- 3 教育費
- 4 医療費
- 5 交通費
- 6 レジャー費
- 7 衣料費
- 8 その他の費用
- 9 通信費
- 10 食費/日用品
- 11 家賃
- 12 ガス代



ヒミツ その③ お給料の使いみちを考えてみよう！

計画家の家の人の立場になって、1か月の給料で生活する体験学習をします。

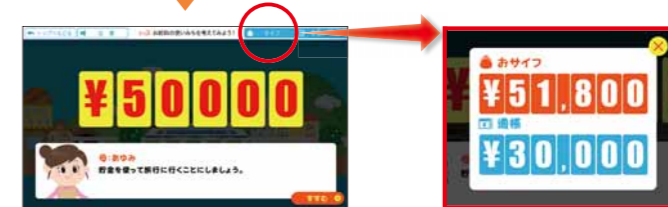


1日から30日目までの中で、買い物に行く、休みの日に遊びに行くなど、いろいろな出来事が起こります。

一度クリック(タップ)すると、選び直すことはできません。実際の買い物と同じように「よく考えてから」買うことが重要です。



児童は、財布の中の現金87,000円と貯金80,000円の範囲で、何にお金を使うかを考え、決定します。

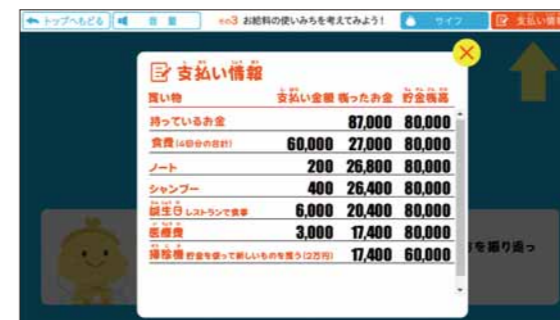


財布の残額と貯金額は、見たいときにいつでも見られるようになっています。



1か月の体験終了後、財布の残額が表れ、結果に応じたマネーベルのアドバイスが表れます。結果は全部で18種類。Web上の「Web版教材のご紹介」からダウンロードできます。

「計画的にお金を使う」ためにはどうしたらよいか、自分の言葉で発言できるような仕掛けが満載です。



児童は支払い情報をワークシートに書き写し、「どのように考えて選択したのか」話し合います。


！ キーワード 収入は労働の対価
生活費として計画的にお金を使う大切さ、貯蓄の意義

1 ヒミツその1～その3 を使った授業のイメージ





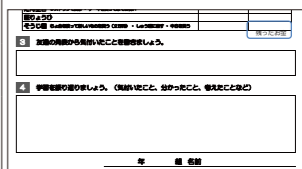
1. 家庭で使うお金は家族が働いて得たお金で、お金を稼ぐことの大変さと大切さを考える。(ヒミツその1)

活動内容	留意点	教材
<p>教：皆さんは、お金を使って買い物をしたことがありますか。家庭ではどうやって生活しているのか、お金の流れについて考えてみましょう。</p> <p>児：WS(働いて)得たお金で、(生活)費を支払う。</p> <p>教：家族や周りの人がどんな仕事をしてお金を得ているのか、マネーベルのヒントを手掛かりに働いている人の話を聞きに行きましょう。</p>		P.8 WS ① ①
★ワークの流れ★		
<p>① 【Web】「ヒミツその1」から、働いている人を見つけて話を聞く。</p> <p>② 見つけた職業のやりがいや苦労話から、思ったことをWSに記入する。</p> <p>③ Webから見つけた職業と、思ったことをグループ内で発表する。</p> <p>④ 友達の意見を聞いて、気付いたことをWSに記入する。</p>	<p>仕事は14種類あり、設定した時間内に興味のある仕事を数種類見てくるように伝える。</p>	
<p>教：(児童の意見を基に)家族が生活するために、働いて収入を得ていることを学びました。「カッコいい」「やってみたい」と思う職業でも、皆さんから見えないところで頑張ったり苦労していることが分かりましたね。そうやって得た収入を家庭ではどのように使っているのでしょうか。</p>		

2. 生活に必要なお金とは何かを理解する。(ヒミツその2)

活動内容	留意点	教材
<p>教：家庭で何にお金を使っているか、皆さんで考えてみましょう。生活費にはどのようなものがありますか。</p>		
★ワークの流れ★		
<p>① 生活費にはどのようなものがあるか考えて、WSに記入する</p> <p>② 【Web】「ヒミツその2」を手がかりに、さらに生活費を探し、WSに赤字で記入する。</p> <p>③ 見つけた生活費を発表する。自分が見つけれなかった生活費についても、情報を共有する。</p>	<p>買い物の経験や日常生活を思い出して考えさせる。</p> <p>なるべく12個全部のボタンを見られるように時間を設定する。</p>	
<p>教：生活するためには普段意識していないものにもお金がかかっています。家族が働いて得た収入には限りがあり、計画的に大切に使う必要がありますね。</p>		

3. 家族は、計画を立てて家計収支が釣り合うようにしていることに気付く。(ヒミツその3)

活動内容	留意点	教材
<p>教：今から、皆さんにWeb上の教材を使って、計画家の家の人になって、1か月のお給料で生活してもらいます。</p>		P.8 WS ② ①
★ワークの流れ★		
<p>① 【Web】「ヒミツその3」で「1か月分の料金をまとめて支払う生活費って？」に挑戦する。</p> <p>② WS：選択した項目に○を付ける。</p> <p>教：生活費の中には、毎月決まって必要になるものがあります。給料が入ったら、その分をとっておかなければなりません。では、全員で給料日1日目を体験しましょう。</p> <p>③ 【Web】給料日の1日目を全員で体験し、WSに当てはまる金額を記入する。</p>	<p>生活費の解説を読んだところでいったん止まるように指示する。</p> <p>固定費の言葉を押さえる。</p> <p>1日目までは、全員が同じ画面を体験し、財布に入れた金額と通帳額を確認してスタートさせる。</p>	 
<p>教：次に、2日目から30日目まで、1か月の生活を体験してみましょう。</p>		
★ワークの流れ★		
<p>① 【Web】2日目から30日目までのイベントを体験する。</p> <p>② 体験終了後、自分が支払った情報をWSに記入する。</p> <p>③ グループ内で発表。</p> <p>④ 友達の意見を聞いて、気付いたことをWSに記入する。</p> <p>教：生活していく中でいろいろなことにお金を支払ってましたね。例えば、掃除機のように、おうちのものが壊れたとき、皆さんは何を選択しましたか？</p> <p>児：貯金で新しい掃除機を買った。修理に出した。中古を買った。</p> <p>教：ものが壊れたとき、すぐに新しいものを買うのではなく、他の人から譲ってもらったり、レンタルしたりする方法もありますね。</p> <p>教：1か月の生活が終了してお金が余った人はどの位いますか。その余ったお金をどうしますか。</p> <p>児：貯金する。翌月買う。</p> <p>教：貯金は何のために必要だと思いますか？</p> <p>児：いざという時のため。</p> <p>教：目的をもってためることも大切ですね。お金をためるためには、余ったらためるのではなく、計画家のように先にためておくといいですよ。</p>	<p>残ったお金がいくらではなく、どのように考えて選択したのか分かるように話すように補足する。</p> <p>貯金の意義を考えさせる。</p> <p>貯金の目的は「いざという時のため」「夢や目標を達成するため」であることを伝える。</p>	   
<p>教：生活するためには普段意識していないものにもお金がかかっています。家族が働いて得た収入には限りがあり、計画的に大切に使う必要がありますね。</p>		
★見つめる(まとめの学習)★		
<p>教：家の人は、働いて得た大切な収入(お給料)と支出が釣り合うように計画を立ててお金を使っていることが分かりましたね。</p> <p>児：WSに振り返りを記入する。</p> <p>児：振り返りを発表する。</p>	<p>3つのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入と支出が釣り合うように計画的に使う。 ・必要なものと欲しいものを区別する。 ・貯金することも大切。 	P.8 WS ② ④
		

アイコン説明 教 教員 児 児童 WS ワークシートの略 書き込み

ワークシート①(解答例)

ワークシート①

めあて **生活を支えるお金** の大切さと使い方を考えよう

1 家庭ではどのようにお金を得て生活しているか、考えてみましょう。
 (働く) ことによって得たお金で、(生活費)を支払う。
 ① 収入 ② 支出

Web教材「ヒミツその1」から、働いている人たちの話を聞いて、話を聞いてみよう。
 働いている人のやりがいや苦労している話を聞いて、どのように思いましたか。
 ・どの仕事も苦労がなくて大変なんだなあ、と思った。
 ・お給料をもらうのは大変なんだ。
 ・仕事は、苦労もあるけど、楽しいことやうれしいこともある。
 ・お父さんやお母さんにも仕事のことを聞いてみたい。
 ・自分は、○○の仕事をしてみたいと思っているので、やりがいや大変さが分かった。
 友達の話を読んで聞いて気づいたことを書きましょう。
 ・お父さんやお母さんにもいろいろ大変な話を聞いて、仕事をしてお給料をもらうって、みんな大変なんだと気づいた。
 ・お給料をもらうために働いているのが、楽しいことやうれしいこともあった。

3 生活費にはどのようなものがあるか考え、思いついたものをいくつかでも書きましょう。

食費	電気代	水道代	ガス代
家賃	通信費	教育費	衣料費
医療費	交通費	日用品代	レジャー費
外食費	クリーニング代	美容代	お小遣い

Web教材「ヒミツその2」を見て、新たに気づいた生活費を赤字で書き足そう。
 ・生活には、思っていた以上にたくさんのお金が使われているんだと分かった。
 ・お金は、家族が働いて得た働いたお金のため、むだづかいしないほうがいい。
 ・収入は働きの対価であるので、計画的に使わなければいけないと思った。
 ・自分の家族に、仕事のことやお金の使い方を聞いてみたい。

4 学習を振り返りましょう。(気づいたこと、分かったこと、考えたことなど)

年 組 名前

ワークシート②(解答例)

ワークシート②

めあて **お給料の使いみち** を考えよう

Web教材「ヒミツその3」を見て、1か月の生活費を計画的に使う体験をしてみよう。
 1か月の料金をまとめて支払う生活費に○を付けましょう。

1か月の料金をまとめて支払う(生活)費の合計 129,000円
 先に分けておくお金(おこづかい) 44,000円
 使えるお金(貯金) 87,000円

1か月の料金をまとめて支払う生活費のことを固定費というよ。
 固定費、貯金などは、先に分けておくことが大切だよ。

2 Web教材「ヒミツその3」を体験した後、支払い情報を記入しましょう。

持っているお金	支払ったお金	貯金残高
高専4回分 (15,000円) 20,000円 10,000円(合計)	60,000	87,000
ノート		27,000
レジャー	<貯金を使って旅行(6万円)> <お土産> <近所の公園>	
ジャンプ		
誕生日	<レストランで食事・ケーキを買って家で食べる>	
送りようひ	<貯金を集めて新しいものを買う(2万円)・修理に出す・中古を買う>	
そうじ機		

3 体験をしてみて気づいたことを書きましょう。

4 学習を振り返りましょう。(気づいたこと、分かったこと、考えたことなど)

年 組 名前

3 Web版消費者教育読本を活用した授業展開例

授業展開例-① 5年(内容 C) 題材名「じょうずに使おうお金と物」

●小題材名 「お金の使い方を見つめよう」

- ◇目標
- ①金銭の大切さに気づきその使い方に関心をもつ。
 - ②収入は労働の対価であり、生活を支えるためにいろいろな場面でお金が使われていることを理解する。

評価

本時の展開

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点	教材
見つめる【10分】	1. 家庭で使うお金は、どのように得ているか考える。 「ヒミツその1」導入を視聴し、本時のめあてを確認する。	○いろいろな物を購入した経験から、生活するためにはお金が必要であることを確認させる。 ○自分の家族では、どのように収入を得ているのかを考えさせ、家族が働いた得た収入で生活費を支払っていることに気付かせる。	ワークシート①
		(生活を支えるお金)の大切さと使い方を考えよう	
活動する【25分】	2. 仕事とお金について考える。 「ヒミツその1」を視聴し、働いている人の話を聞き、自分の考えをワークシートに記入する。 全体で発表する。 友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり見直したりしたことを記入する。	○仕事は14種類あることを伝え、設定した時間内に興味のある仕事を数種類見てくるように指示する。 ○聞いた話をそのまま記入している児童には、自分の考えを記入するように声かけをする。 ○収入は労働の対価であり、どんな職業にも苦労がある。それでも一生懸命働いて収入を得ていることに気付かせ、家族への感謝の気持ちを持てるようにする。	Webヒミツその1 ワークシート①
	3. 生活費について考える。 生活費にはどのようなものがあるか考え、ワークシートに記入する。 「ヒミツその2」を視聴し、新たに気づいた生活費をワークシートに加筆する。 全体で発表する。	○買い物の経験や日常生活を思い出して考えさせる。 ○生活するためには普段意識していないところにもお金が必要であることを気付かせ、「お金には限りがあり、工夫して大切に使う必要がある」ことを押さえる。 評 金銭の大切さに気づき、その使い方に関心を持っている。(関心・意欲・態度) 評 収入は労働の対価であり、生活を支えるためにいろいろな場面でお金が使われていることを理解することができる。(知識・理解)	ワークシート① Webヒミツその2
生かす【10分】	4. 学習を振り返り、発表する。 友達の考えを聞いて、自分の考えが深まったり見直したりしたことも記入する。	○自分の家庭生活を見つめ、今日学習したことを振り返られるようにする。	ワークシート①

授業展開例-② 5年(内容 C) 題材名「じょうずに使おうお金と物」

●小題材名 「お金や物の価値、その使い方を見つめよう」

- ◇目標
- ①金銭の大切さに気付きその使い方に関心をもつ。
 - ②必要な金銭の計画的な使い方について理解する。

■ 本時の展開

評 評価

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点	教材
見つめる 【10分】	1. 前時の学習を振り返る。 本時のめあてを確認する。	○生活に必要なお金は「家族が働いて得た収入によるもの」で、「お金には限りがあり、工夫して大切に使う必要がある」ことを確認する。 (お給料の使いみち)を考えよう	ワークシート②
活動する 【25分】	2. お給料の使い道を考える。 「ヒミツその3」を視聴し、1か月にまとめて支払う生活費が何か、ワークシートに記入する。	○場面設定を伝える。 計画家(父・母・中2・小5)の家の人になって、家族が働いて得たお給料(27万円)で1か月の生活費を管理する。 ○生活費の中には毎月必ず必要になるものがあることを気付かせ、先に収入から支払っておくことを伝える。 ○他にもお小遣い、貯金を先に引き、収入からそれらを支払った残りの金額がいくらになるか確認する。	Webヒミツその3 ワークシート②
	「ヒミツその3」を視聴し、1か月の生活費の管理を疑似体験する。	○Web版読本の使い方と注意事項を説明する。使える金額は87,000円、通帳には貯金が8万円入っている、前のイベントに戻ることはできないため、その場でしっかり判断するように指示する。 ○選択に戸惑っている児童には、自らの家庭を見つめて考えて選ぶように支援する。	Webヒミツその3 ワークシート②
	自分が支払ったものを班内で話し合い、全体で発表する。 発表を基に計画的なお金の使い方について考える。	○最終画面まで行くと支払い情報が出てくることを伝え、ワークシートに書き写すように指示する。 ○残ったお金がいくらかではなく、どのように考えて選択したのかを分かるように発表させる。 ○新しいものを購入しなくてもいろいろな考え方があることを知る(修理、レンタル、他人から譲ってもらうなど)。 ○余ったお金をどうするか発問し、貯金の意義について考えさせる(病気やケガ、大きな出費への備え、将来のため)。 ○家族の状況や商品の情報をよく見て、本当に必要かどうかよく考え、計画を立てて金銭を使う必要があることを理解させる。 評 金銭の大切さに気付き、その使い方に関心をもっている。(関心・意欲・態度) 評 必要なお金の使い方を理解している。(知識・理解)	ワークシート②
生かす 【10分】	3. 学習を振り返り、発表する。	○自分の家庭のことを考えて、振り返られるようにする。 ○友達の考えを聞いて、自分の考えが深まったり見直したりしたことも記入するように指導する。 ○お金には限りがあり、計画的に使うことに理解を深め、自分の生活(お小遣いやお年玉)などに生かしていくことの大切さを感じられるようにする。	ワークシート②

1 新学習指導要領と消費者教育

1 新学習指導要領から読みとる、これからの消費者教育(小学校家庭科)

新学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指して、①知識、技能の確実な習得、②思考力、判断力、表現力等の育成、③学びに向かう力、人間性の涵養の3つを重視しています。この3つの柱を受けて、各教科等では、教科等の特質に応じて「教科の目標」「学年ごとの目標」「内容」等に、育成する資質・能力が示されています。

小学校家庭科の目標は前文に、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。」とあります(具体目標の3つは、P13参照)。家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する力の育成が求められます。

持続可能な社会の構築については、今改訂で初めて設けられた総則の前文にも、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながらさまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と述べられています。

これからの消費者教育は、消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を工夫し、実践できる力を育てることが重要になります。

2 新学習指導要領で充実された消費者教育の内容(小学校家庭科)

家庭科の内容は、従来はA～Dの4つで構成されていましたが、右のようにA～Cの3つの枠組みとなりました。

- 家庭科 3つの内容
- A 家族・家庭生活
 - B 衣食住の生活
 - C 消費生活・環境

小学校家庭科においては、従来から、「社会において主体的に生きる消費者を育てる」視点から、「物や金銭の使い方と買物」「環境に配慮した生活の工夫」の2項目を指導してきました。

今改訂では、持続可能な社会の構築に対応する観点から、自立した消費者を育成するために、小学校と中学校の内容の系統性を重視し、消費者教育に関する内容の一層の充実を図っています。

具体的には「買物の仕組みや消費者の役割」に関する内容を新設するとともに、物の購入に当たっては、「必要な情報の収集・整理と活用」が追加されました。身近な物の購入に当たって、目的に合った品質の良い物を選ぶために、さまざまな観点から情報を集め、整理して、比較検討し、選択できるようにします。小学校では、主体的に考える態度と意思決定力の育成が重要になります。

また、買物では、新たに「売買契約の基礎について触れること」と示されました。消費者としての自覚を持たせ、適切な消費行動をとる必要があることに気付かせます。振り返りを大切にして、課題を発見し、よりよい解決を追究する態度の育成を図ります。

2 指導の工夫

1 課題解決を目指した実践的な学習の工夫

小学校家庭科では、これまでも課題解決力を育成する学習が重視されてきました。新学習指導要領では、さらなる充実が求められており、A～Cの各内容の前文には、「課題をもって〇〇(各内容で学ぶ事項)を考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」と共通に示されています。子供が関心をもって自分の生活を見つめ、問題を発見してよりよく解決できるようにするため、身近な生活から、具体的実践的な学習活動を工夫することが大切です。

2 主体的・対話的で深い学びの実現

子供が自分の生活体験と関連付けて問題を考え、計画的に学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりして、次時の学習につなげる「主体的な学び」、日常生活の中から問題を見いだしてさまざまな解決方法を考え、他者と意見交流して新たな考えに気付いたり、自分の考えをより適切なものとしたりする「対話的な学び」、新たな問いを見出し、課題追究、課題解決を行う探究の過程に取り組む「深い学び」が実現できる学習を重視します。特に、消費生活においては、家族構成や家庭の状況によって選択は異なります。考えを交流して多様性を認め合い、協働して問題解決に取り組めるような学習活動を計画します。

3 他教科との関連や中学校との系統性の重視

小学校では、家庭科だけでなく生活科、社会科、道徳、総合的な学習の時間等、他教科等においても、消費者教育の視点が位置付けられている内容があります。各教科等との関連を図って効果的に学習できるようにすることが大切です。例えば、社会科では、以下の内容が例に挙げられます。

社会科の例

学 年	内 容
第3学年	地域の産業と消費生活、地域の生産や消費者の願いを踏まえた販売の仕事
第4学年	飲料水、電気、ガス、水道(節電や節水)、廃棄物の処理(ごみの減量、資源の有効利用)、
第5学年	農業、水産業における食料生産、消費者や生産者の立場、安全性の確保、環境への負荷、産業と情報 など

また、中学校の内容「C 消費生活・環境」との繋がりに留意します。

3 本Web版消費者教育読本の活用

本Web版読本は、その1「お金って、いったいどこから来るんだろう?」、その2「生活するためには、ぜ～んぶお金が必要だよ」、その3「お給料の使いみちを考えてみよう!」の3つのステージで構成されています。その1では、労働と金銭、その2では、生活を支える、生活に必要な金銭、その3では1か月の生活費について、どれも、家族の会話とともにWebで疑似体験します。まとめて一度に行うことができるように設計されていますが、他の内容と関連を図って学習することが効果的であることから、2年間にわたって繰り返し活用できるようになっています(「P.13 3 参照」)。

4 指導計画案

本Web版読本を活用した指導計画の構想に当たって、家庭科の3つの具体目標を確認します。

1 小学校家庭科の具体目標

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

上の3つは、新学習指導要領に示されている育成すべき3つの柱に沿ったものであり、(1)は、知識・技能、(2)は、思考力・判断力・表現力、(3)は、学びに向かう力、人間力について、それぞれ記述したものです。

2 題材の指導計画案

消費者教育には1つの決まった正解があるわけではありません。

各学校の子供の実態を踏まえ、上記1の3つを育成する資質・能力を明らかにして計画します。

Web版読本	大題材	小題材
お金って、いったいどこから来るんだろう?	家庭の収入と家族の仕事 働いて得る金銭といろいろな職業	どのようにしてお金を手にしているのか考えよう 働くことの大変さとお金の大切さを考えよう (道徳 各学年 勤労、公共の精神との関連)
生活するためには、ぜ～んぶお金が必要だよ	わたしたちの生活に必要な金銭	どんなことにお金を使っているか調べよう お金が生活を支えていることを確かめよう
お給料の使いみちを考えてみよう!	家族の1か月の生活費	毎月決まって必要なお金はどんなものか考えよう 生活するために必要なお金を調べよう 必要性を考え計画的にお金を使おう

3 内容「C 消費生活・環境」における2年間を見通した題材配列と指導内容(例)

学 年	第5学年			第6学年			
	A C	ABC	BC	B	B	AB	AB
内 容							
題 材	家庭の収入と家族の仕事	おいしいね 毎日の食事	物を生かして 住みやすく	見直そう食事と生活のリズム	工夫しよう さわやかな生活	思いを形に。生活を豊かにする物の製作	まかせてね 今日の食事
時 間	5	11	8	12	9	10	14
	・お金の大切さを	・家族のための	・身の回りの物や	・おかずの実習	・衣服の選び方、	・作品に合う布を	・加工食品の選

※紙面の関係で途中まで掲載しています。

一覧表は、Web上のファイル「内容「C 消費生活・環境」における2年間を見通した題材配列と指導内容(例)」で見ることができます。

ダウンロード先 https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/center/kyoiku/web/shou03/documents/kyouzai/huroku/c_shouhi_kankyo.pdf



平成29年度にリニューアルして
タブレットでも使えるようになりました!!

授業で使いやすい消費者教育教材 小学校5・6年生向けWeb版

～しっかり考え 楽しくチャレンジ～
**さあ始めよう!
自分でお買い物**

Web上での買い物を疑似体験し、集めた商品の情報から自分なりの考えで意思決定できる教材です。
★主体的・対話的で深い学びの学習教材!

新しい消費者教育のスタイルを提案! 中学生向けWeb版

カートくんの買い物☆なびげ～しょん
- 「消費者の権利と責任」の社会 -

Web上での買い物の疑似体験を通じて、商品を選択する力や消費者の権利と責任が学べる教材です。
★批判的思考についても学べる学習教材!

東京くらしWEB https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/manabitai/kyoiku_web/

消費者教育読本

消費者教育読本作成検討会委員

小関 禮子	帝京大学大学院 客員教授
船江 莉佳	弁護士
山田 敦子	荒川区立汐入小学校 主幹教諭
齋藤 麻由子	杉並区立桃井第四小学校 主任教諭
山崎 禎久	教育庁指導部義務教育指導課指導主事

編集・発行 東京都消費生活総合センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ16階
Tel: 03-3235-1157 Fax: 03-3268-1505
東京くらしWEB <https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/>

デザイン 西桜印刷株式会社
〒106-0044 東京都港区東麻布2-32-8
Tel: 03-3568-2543

発行年月日 平成30(2018)年3月発行 初版
平成31(2019)年3月発行 第2版